

「ヘルスコミュニケーションウィーク 2025 in Hongo, Tokyo」にて研究発表を行いました

当コース大学院修士2年生の趙 亦瑋さん・小杉 実香さんが、2025年10月4日、5日に東京大学本郷キャンパスで開催された「ヘルスコミュニケーションウィーク 2025 in Hongo, Tokyo」にて研究発表を行いました。小杉さんは『外国人患者対応経験のある医療者がもつ医療通訳者の必要性に関連する要因』、趙さんは『外国人患者のコミュニケーション・スキルと医療通訳サービス利用意欲との関連性の検討』をテーマにした研究発表でした。

ヘルスコミュニケーションウィーク内で開催された、日本医療通訳学会では、本コース教員の大野直子先生が大会長を務め、シンポジウムの座長として登壇しました。シンポジウムでは、さまざまな専門家との意見交換を通して、医療通訳におけるヘルスコミュニケーションの在り方について活発に議論が行われました。

今回の学会には、医療通訳やコミュニケーションに関する多様な分野の専門家が参加しました。

大学院生たちはこれまでの研究成果をもとに発表を行い、聴講者からの質問にも丁寧かつ的確に対応していました。参加者からは多くの励ましや建設的なご意見をいただき、院生たちはその一つひとつに真摯に耳を傾け、研究への新たな視点を得る貴重な機会となりました。



本郷会場にて。左から順に、大野先生、趙 亦瑋さん（中央）、小杉実香さん（右）

当コースでは今後も、学生一人ひとりの研究意欲を支え、ヘルスコミュニケーションの発展に寄与できるよう努めてまいります。